

## 令和元年度 第2回酒田市図書館協議会の概要報告

日時：令和2年3月23日（月） 午後1時30分～午後3時30分

場所：総合文化センター 412号室

出席：高橋利春委員、庄司憲昭委員、赤坂宜紀委員、榊原有友子委員、岩崎宏平委員、後藤吉史委員、大澤志美子委員、高山寿美子委員、佐藤弥委員、尾沼馨委員、本間教育次長、岩浪図書館長、高橋図書主幹、岩堀文庫長、小田副館長、大井主査、池田主査、清野主査、鈴木係長、富岡主任

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 教育次長あいさつ
4. 報告・協議事項

### (1) 令和元年度図書館事業の進捗状況について 資料1

(副館長から説明)

榊原委員：今日いただいた図書館だよりは、どの範囲で市民の方々に配られるのか。図書館に来て初めていただけるのか、広報等と一緒に配られるのか、お聞きしたい。

池田主査：全市民を対象に各コミセンと学校に配布したほか、図書館と分館に置いている。

榊原委員：学校とは、全生徒に配布か、学校に1部か。

池田主査：全生徒に配布する予算がなく、各学校に掲示してもらおうよう5部ずつ配布している。

庄司委員：家読の取り組みが始まり4年目とのこと。もしえのん・あののんの読書手帳は全児童配布だったと思うが、そこで得られた効果等まとめた内容があれば教えていただきたい。

池田主査：本は読むが手帳に書くのが面倒くさいという声が多く、デザインを変えたり書きやすさを変えたりしているが、難儀している。教育振興基本計画の時のアンケートの内容と含めてあとで詳しく説明させていただく。

庄司委員：もう1点。読み聞かせ出張講話は、今年度実績なしとのこと。2、3年前に南平田小学校の読み聞かせボランティアの方を対象にアドバイザーの加藤先生をお招きして、4、5人だったが勉強会をして、大変良い講座だった。図書専門員の方との研修会もあるようなので、出前講座があると宣伝していただきたい。また、南平田小学校実施時は謝礼が必要だったのか、学校で支払ったのかわからないが、経費等がかかるようであれば市負担の講座があると宣伝してはどうか。宣伝はするが、経費は学校負担と言われると二の足を踏むこともあると思うので、宣伝の仕方と費用負担についてお考えいただきたい。

図書館長：読み聞かせ出張講話については今後もPRに努めていくが、予算的には1回1万円で2回分の予算を計上している。

庄司委員：2回までは市の負担で実施できるということか。

図書館長：図書館の予算で実施できるということ。

佐藤委員：職員研修を行ったということで、とても良い取り組みをされたと思う。これは令和2年度も引き続き実施する予定か。

図書館長：令和元年度の先進図書館視察は、コミュニケーションポートへの移転を踏まえたもの。これまでは非常勤職員が研修に行く機会がなく初の試みだった。令和2年度についても積極的に県

図書館協会主催の研修会に非常勤職員を中心に参加させたいと考えている。

大澤委員：夏休みの親子手作り絵本講座で作った作品をコンクールに出しているようだが、その作品の展示はしていないのか。

富岡主任：夏休みの宿題で作成する方が多く、一度学校に宿題として提出し戻ってきた作品を改めて図書館に提出いただきコンクールに出品、コンクールから戻ってくるのが12月以降というスケジュールになっており、そのあと更に図書館に提出いただいて展示ということはしていない。

大澤委員：良い作品があったら見てみたいので展示してもらいたい。

富岡主任：コンクールで最優秀賞をとった場合は、絵本が製本、配布されるので、図書館で受け入れ、登録をして広く市民の方に見ていただいている。

## (2) 令和2年度図書館の運営方針及び重点施策（案） 資料2

（館長から説明）

後藤委員：令和2年度の重点施策の中で、レファレンスサービスについて触れている。一部の利用に限られてきたので、広く周知を図りたいという趣旨はわかる。図書館の図書館たる所以でもある訳だが、レファレンスサービスというのは何をどこまでやるのかという姿勢が図書館自体になると、職員の負担が大きくなり過ぎるという危険性がある。その点はどう考えているか。

図書館長：これまでレファレンスサービスをあまり積極的にPRしてこなかった理由は、職員への過度な負担を恐れるということがあったと思う。よその館ではレファレンスサービスについて、一定の条件というか、こういういったものがレファレンスサービスですという周知を図った上で受け付けている、そうでないと例えば学校の宿題等そういうものまで来てしまうという傾向があるようだ。そこについては、事前にこういったレファレンスサービスを行っているという説明の必要があると思う。カウンター業務をやりながらのレファレンスなので、過度な負担がかかる恐れがあることは承知している。

後藤委員：窓口職員の方々がある程度同じスタンスで向かわなければならない。あの人はいろいろと調べてくれたけど、この人は調べてくれないということになる恐れもある。レファレンスサービスを提供する側が、こういうものについてこのレベルまでという部分を共有していないと、職員の方にとって厳しいものになるのではないかと感じる。図書館としての姿勢、基準、考え方をきちんと持っていなければいけないのではないかと。

図書館長：委員がおっしゃるとおり、職員が共通認識を持っていないと難しい。ベテラン職員はかなりのスキルを持っているが、最近採用された職員ではレファレンスサービスを提供するのがなかなか難しい面がある。そういうところは事前の研修や会議で共通認識を図っていきたい。

高山委員：県図書館研究大会で南相馬市の事例発表があり、その中で良いと思ったのは、利用者やいろいろな方に呼びかけをして、みんなで一緒にイベントをしていること。イベントのポスターにしても、ポスター作成の研修会を行う等、市民と一体となってやっているようだった。新しい図書館の利用促進に向けて、そのようなこともやっていけば良いのではないかと考えた。

図書館長：ライブラリーセンターの利用促進については、開設準備室も図書館の事務室に移動してくるので、内部でよく検討して取り組んでいきたい。

高橋会長：小規模であっても市民を交えてのワークショップもした方が良いと思う。

後藤委員：市内にある様々な資料がどんどん失われているように思う。どこにどんな資料があるかは、古文書同好会等の方々を知っている。その方々もかなり高齢化しており、限界線にあると思う。

どこに何があるかをリスト化、資料化していくのは、今がギリギリのタイミングではないか。処分するときにひと声をかけてくれと言っておくだけでも大事だと思う。家の建て替えもかなり進んでいるので、どんどん焼却処分されて、今でも遅い気がする。資料館とのすみ分けも必要で、市民の方が資料館に話をするとか、光丘文庫に話をするとか、それは市の情報として共有できるのか、どこが担当するのかというすみ分けの整理が必要だと思う。

図書館長：資料館とのすみ分けについては、郷土史研究者の方からも窓口の一本化という話が出ている。光丘文庫と資料館は相当重なる部分があり、所蔵資料では紙資料が光丘文庫で、それ以外が資料館という大きなすみ分けはあるが、実態としては同じようなものがどちらにもある。業務上の連携は図られてはいるが、今後の課題であり教育委員会内部で検討していきたい。

文庫長：どこにどんな資料があるか、なかなか光丘文庫でも把握できていない。古文書同好会、民俗学会の方々がよくご存知なのは承知している。そういった方々の知見を活用し情報をまとめることに努めたい。処分する際にひと声をかけてほしいとは、今もHPで呼びかけている。できるだけ資料館か、光丘文庫に一報がある状況にしていきたい。資料館の企画展示にも光丘文庫の所蔵資料がかなり活用されている。双方の情報共有のみならず、将来的に同じ方向を向いた施設のあり方、活用について模索したい。

岩崎委員：前年度から開始した日本海総合病院との連携とあるが、具体的に前年度の反省から今年度はどのような連携を進めていくのか。

図書館長：令和2年度では、図書館が病院に対して本の貸出を行い、病院で入院患者さんにその本を提供することを新たな連携サービスとして考えている。どれくらいの需要があるかわからないが、病院との調整はほぼ終了しており、年度の早いうちに始めたいと考えている。

高橋会長：患者さんからの要望にこたえて本を貸し出すということだったが、それは長い入院患者さんが対象で、要望を聞き取りするのか。

図書館長：ある程度長い期間でないと本が読めないのも、そうなると思う。インターネット端末から予約することになる。

副館長：入院患者さんからの申し込みを病院図書室で取りまとめて、図書館HPからインターネット予約し週3回届けるもの。入院患者さんは、病室で読める方、短期間でない方から要望があると思うが、そういった方に病院で調整してもらって貸し出すことを考えている。

尾沼委員：最近の報道等で、子どもの貧困やこ食のニュースがよくある。その対策として子ども食堂が民間で開設されており、市内にも子ども食堂が開設されたという話を聞く。重点施策を策定するにあたって、部内で子ども食堂と図書館との連携の話題が出たことはあるか。

図書館長：重点施策については、部内で調整を図っていないので、子ども食堂についても会議等で話題に出たことはない。

### (3) 令和2年度図書館関連予算の概要について

資料4

(係長から説明)

高橋会長：今年の秋にプレオープンということだが、プレオープンの範囲はどれくらいか。

図書主幹：11月頭のプレオープンを予定している。駅前の再開発事業は、全部で工期が2回。1期目は旧ジャスコがあった場所に建てるもので、9月に完成予定。ホテル、レストラン、バンケットのほか、図書館、観光案内所等の公共施設の整備が完了する。2期目として現在のホテルがある街区の工事を10月から開始。そこにできるのが公共施設では立体駐車場、バス待合所、

それからコンビニ、マンション等。こちらが完成するのが令和4年3月を予定しており、全部で大きく1年半ずつ3か年の計画になる。今年1期目のA棟が完成する。図書館の建物はすべて完成するが、残念ながら駐車場がない状況なので、現在車で図書館を利用している方にとっては非常に不便になるとのことで、現在の文化センターの図書館は移転しない。駐車場ができてから、グランドオープン時に図書館を移転する。建物はできるので、先行オープンの場所としては駅側の入り口からホテルの共用ロビーにつながるL字型の通路70メートル位ある空間をフルオープンにしたいと考えている。そちらには観光案内所もフルオープンで入る。図書館の書架がある部分は、本が入っていないので図書館としての機能はオープンしないが、指定管理を予定している株式会社図書館流通センターから提案があった、高校生の居場所づくり的な活動を高校生からしてもらうことを考えており、その活動の場として一部エリアを使いたいと考えている。ただ使うということは、光熱水費、清掃、セキュリティ等の費用がかかってくるので、バランスをみながら使うエリアを考えたい。L字型のパブリックゾーンと呼んでいる部分をフルオープンし、本はないが一部雑誌、新聞、電子書籍を準備。図書館の貸出機能本体は移転してこない状況でのオープンということは了解していただければと思う。フルオープンは令和4年4月の予定。

高橋会長：今、高校によっては帰宅時間の遅い人に図書館を開けて、帰宅時間まで図書館で本を読むなり時間をつぶすなりして良いというところもあるが、そういうことができるスペースになるということか。

図書主幹：新しい駅前施設ではその点も考慮して、先行オープンの開館時間は平日9時から19時まで現在の図書館と同じ開館時間を維持したいと考えている。休みは年末年始のみの予定。フルオープンした際には図書館オープン時間は平日9時から夜9時まで、そうすると終電までいられる時間になると思う。土日は9時から夜7時まで、2時間短くなるがそのように運用したいと思っている。

#### (4) 子ども読書活動推進計画について

#### 資料4

(池田主査から説明)

赤坂委員：学校巡回文庫について、本当にありがたいと思っている。1セットから2セットにしていたことで幅も広がると思う。来年度、教科書が変わり紹介される本も変わるので、学校にある本とない本がある。学校にない本だけを貸してもらおうと、1か月だけじゃなくもっと長い期間貸してもらえないかなと思う。そのあたりを希望する学校とうまく調整を図っていただくとありがたい。学校としても、できるだけ巻末で紹介されている本は買うようにしているが、教科書が変わって一年目の年度当初は難しいところもある。工夫していただけたらともっといろいろな学校が希望するのではないかなと思う。子どもたちにとっても、学校にない本を図書館から借りて読むことができれば、図書館のありがたみを感じることができると思う。

池田主査：図書館と小学校でどういう本を持っているのか、学校と図書館ではシステムが違うため、共有できなかった。また図書館の場合は量が多すぎて、一度リストを出そうとしたこともあったが、エクセルがパンクする程のデータ量になってしまい、お互いのデータを交換できなかった。なるべくダブらないように調整しながら取り組んでいきたい。

高山委員：家読推進の課題に、家庭環境や保護者による取り組みに差があるとあった。ブックスタート事業で読み聞かせをしているが、家読の課題と同じように興味のないお母さんは、数としては

少ないが、読み聞かせだけではなくいろいろな話をしてもそわそわしたりして興味のないことがわかる。そういうお母さんに対しても、いろいろと PR して絵本を読んでもらえるようボランティアしながら進めていきたい。

池田主査：家庭、親によって大分差がある。ブックスタートでは図書館の PR もしているが、酒田に住んでいても図書館がどこにあるかわからないお母さんもいる。家庭に左右される部分が多く、どう解決していくかが大きな課題となっている。

佐藤委員：図書館として独立している施設ではないから、なおさらわからないのだと思う。

大澤委員：アンケートに本には漫画も含まれるとあるが、ご父兄は漫画を本と認識しているだろうか。

池田主査：当初の事務局案でも漫画は本に含まないとしていたが、本日欠席の本間委員より「漫画は日本の重要な文化であり、雑誌も活字を読むことに違いはない、読書のハードルをあげてはいけない。小説、物語を読むことだけが読書ではない。」とアドバイスをいただいたので、含めることにした。私も、読書というと小説、物語を読むことだと教育を受けた気がする。しかし活字を読むということが、まずは入り口を広げるという部分で大事だと。漫画に難しい漢字が出てきても、フリガナがあるので知らず知らずのうちに漢字が読めるようになる。漫画、雑誌を除くのはナンセンスだとのアドバイスだった。

岩崎委員：読書手帳の目標の設定がないのはなぜか。

池田主査：読書手帳を配った冊数を目標にするのか、一人何冊と書いてもらうのを目標にするのか、目標数値を設定するのが難しかったのだと思う。

岩崎委員：家読の活用は良い面もあると思う。2016年から始まっているとあるが、アンケートから結果につながっていないと思った。計画策定から4年経過し、手帳とは違う方法で家読推進を進めていくことも考えて良いのではないかと思った。

池田主査：指定管理者の提案事業にも読書手帳を活用していく事業もあるので、こういった形であれば使ってくれるのか、そちらとも協議をしていきたい。新しい図書館になると読んだ本をシールに打ち出し、シールを貼っていくことになる。同じシステムが小学校に全部入れればいいが、とりあえず図書館で借りた分しか打ち出しにならない。東根市立図書館でお話を聞いた時に、1巡目の読書手帳は出たが、2巡目はなかなか誰ももらいに来なくて在庫がいっぱいとのこと。自動で印字になったものでさえ使ってくれないなら、手書きの読書手帳というのは大変である。指定管理者は全国で500館以上も指定管理をしているので、ノウハウを聞きながら活用を協議していきたい。

高橋会長：宮城県の図書館で銀行通帳のように入れると印字してくれる読書手帳があった。そういうものが県内の図書館にもあったら良いと思う。学校図書館までは予算の問題もあるので、新しい図書館には入れてもらいたいという希望はある。

(5) 酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業の経過等について 資料4

（図書主幹から説明）

(6) その他（館長より説明）

新型コロナウイルス感染症の対応について

令和2年度行政組織機構の見直しについて

榊原委員：図書館だよりへの一つの提案。子ども読書推進に力を入れていくなら、小中学生用の図書館だよりがあったら良いと思う。図書館の仕事をしている経験上、クラスに1枚貼る図書館だよ

りと生徒全員に配る図書館だよりでは全然反応が違う。新着案内1つにしても、クラスに1枚貼っていても、それにはあまり生徒は目をくれなかった。一人一人の目に触れる方が効果的だと思う。予算の問題も、枚数の問題もあるので、学校に A4 1枚子ども用に作成しましたと送って、申し訳ないが学校内で増し刷りして皆さんにお渡しいただければという形で協力していただいても良いと思う。その方が確実に親御さんの目にも触れる。市広報にも新着図書ということで子ども用の本も紹介してあるが、スペースも小さいので目にする親御さんも少ない気がする。学校からもらってきたお便りの中に入ると必ず目を通す。カモンくんニュース等もらってくると必ず私も見ている。部署が違うかもしれないが抱き合わせでも良いかもしれない。そういう風にできたら良いと思った。

図書館長：検討していく。

池田主査：本来は家読だよりが小中学生向けのお便りだが、ここ1年程出ていないのでそちらを充実させていきたいと考えている。

本日欠席の本間委員から、子ども読書の関係でご意見を頂戴しているので紹介する。

アンケート調査については、課題の解決の糸口として活用してはどうかという意見。読書手帳について、活用については学校によるバラつきがあるようだが、どうやって活用していったら良いか、お互いに定期的にアイデアを出し合ってもらってはどうかという意見をいただいた。

5. その他

6. 閉会